

平成28年度第1回四日市市総合教育会議

平成28年5月18日

午前10時 0分 開会

1 開会

○館政策推進部長 おはようございます。

それでは、28年度の第1回の四日市市総合教育会議を開催させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

お手元に事項書がございますように、本日は大きく2点、学力向上アクションプラン、中学校給食、それから、その他のところでも少しあるかと思いますが、このような順番で進めさせていただきたいと思っております。

引き続き、私で司会をさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

今日は公開でございます。記者の方や傍聴の方、いらっしゃいますので、よろしくご協力のほどお願いいたします。

2 学力向上アクションプラン（案）について

○館政策推進部長 それでは、早速でございますが、事項書の2、学力向上アクションプラン（案）について説明させていただきます。

前回までの会議において、このアクションプランの案、非常に熱心に幅広くご意見を頂戴いたしました。そのご意見を踏まえまして、事務局で詳細を詰める作業を行い、今回、最終案という形で、お手元のカラー刷りのものがございますが、作成をいたしました。

このたび、これを完成に向けてということでございますが、この総合教育会議にお諮りするものでございます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、まず、変更点などを中心に、この学力向上アクションプランの案について事務局よりご説明をいただきたいと思っております。お願いいたします。

○吉田教育監 教育監の吉田でございます。おはようございます。

まず、ご説明をさせていただきますが、このアクションプランの策定の経緯ということと少しご説明をさせていただいた後に、本題へ入らせていただきたいと思っております。

前回、1月6日に平成27年度第4回の総合教育会議、学力向上アクションプランの原案検討という形で進めていただきました。その後、平成28年2月の定例月議会の教育民

生常任委員会の協議会において報告をさせていただき、議員の方々からもご意見をいただきました。そのようなことを受けて、4月13日、第6回の教育委員会議で協議を行い、本日原案をお示しすることとさせていただきますので、まずその旨、ご理解をよろしくお願いたします。

それでは、めくっていただきまして、1ページのところでございます。

先ほど説明しましたが、教育民生常任委員会において、アクションプランの位置づけをもう少しわかりやすくしてほしいというご意見がございましたので、1ページのアクションプランの位置づけと役割、そして、2ページの策定の経緯、これを明らかにさせていただきました。

まず、1つ目のところのアクションプランの位置づけと役割というふうには書き、上から4行目、中ほどに、この教育大綱の理念に示す姿を着実に実現するため、特に優先的に取り組むべき内容について策定した行動計画がアクションプランですと。本プランによって、大綱の理念がより実効性のあるものとなるよう取り組みを進めますというようなことで、下の図につきましても、そのことでよりはっきりとわかるようになってきたと。今回は、一般的なアクションプランの中で学力についてのアクションプランという形でご理解いただければありがたいと思います。

そして、2ページでございますが、学力向上アクションプランの策定の経緯でございますが、これにつきましては、一番最後の2行、この提言を受け、本市の子どもたちのさらなる学力向上を目指して四日市市学力向上アクションプランを策定しましたと、このようなところではっきりとさせたということでございます。

続いて、3ページをごらんください。

やはり議会からのご意見の中で、客観的な指標による検証の必要があるのではないかとご意見もいただきました。その中で、3ページ、一番上ですが、プランの計画時期と評価ということで、おおむね5年間を計画期間とするということ、それから、「また」という段落がございますが、学校施設整備など、教育環境の充実のための具体的な施策の実施に当たっては、本市の第3次推進計画と連携しながら進めていきます。そして、参考として、客観的な指標ということで、第3次四日市市学校教育ビジョンの成果指標をそこに改めて載せさせていただいたということでございます。

4ページは、具体的なアクションを、アクション1から6まで、学びの質の向上と学びの環境の充実という大きく2つに分け記載をさせていただき、5ページから10ページま

で、それぞれアクション1からアクション6までを、1枚1ページずつ具体的なものを示させていただくような形で整理させていただきました。

以上、簡単でございますが、このように取りまとめをさせていただきましたので、ご理解ください。よろしくお願いいたします。

○館政策推進部長 1月の前回の総合教育会議の後、いろいろご意見を頂戴しながら、修正した点を主に説明させていただきました。

本日、これを完成に向けて進めていきたいという思いでございますが、さらに何かこの場でつけ加えてご意見等がございましたら、お願いをしたいと思うんですけれども、いかがでしょうか。

これについては、教育委員会議の場でも一応ご議論いただいているところでございます。

中身についてはもう十分ご議論をいただいたところですし、提言を受けた上での整理もこれまでさせていただいているところですので、内容的によろしいでしょうか。

市長、何かコメントございますか。

○田中市長 教育委員のご意見とか私の考えも入れていただいて、非常によくまとまったアクションプランができたのかなというふうに思っております。

これは絵に描いた餅じゃなくて、やはり後はもう実行ということになるわけですが、それぞれ具体的な施策を実施する上で、やはり私の立場から言うと、予算とか財政的な、そういう調整も必要となってまいりますので、ソフト面については、できるところから速やかに実施に移していきたいと思いますが、ハードの整備については、四日市市の次総合計画の中の第3次推進計画、これは平成29年度、来年度から総合計画の最終年、平成32年度、この間で財源をしっかりと見きわめながら順次進めていきたいと思っています。

ただ、最近の猛暑の対策として、普通教室の空調整備、特別教室についてはもう今年度終わるのですが、来年度以降は普通教室の空調整備について、これはかなり優先度の高い施策だと思っていますので、ハード面の整備の中でそれは優先的にやっていきたいなと思っています。

以上です。

○館政策推進部長 ありがとうございます。

市長としての心意気を少し述べていただきました。

あとは何とか財源を当てはめて実行していくということでございますので、またご協力のほどよろしくお願いいたします。

それでは、何回かにわたって学力向上アクションプランについてご議論いただきました。本日をもってこれで完成とさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、1項目めにつきましてはこれで終わらせていただきます。

3 今後の中学校給食に係る検討について

○館政策推進部長 それでは、事項書の3、今後の中学校給食に係る検討についてに入らせていただきます。

これにつきまして、まずは資料が2つあります。提言と、教育委員会としての今後の検討についてがございます。提言じゃなくて報告書ですね。「報告書」と「検討について」と資料がございますので、特に教育委員会としてのこの報告書を受けた形での検討、どういうふうに検討していくかにつきまして、説明を事務局よりしていただきたいと思います。よろしくお願ひします。

○上浦学校教育課長 学校教育課長の上浦です。

今日は、今後の中学校給食に係る検討についてご説明を申し上げます。

まず、本日までの経緯を簡単に申し上げるんですけども、昨年度、平成27年度に中学校給食検討会を7回開いて検討を進めました。その中で、将来に向けた本市の中学校給食にあり方について検討し、平成28年3月24日、報告書をまとめてもらい、教育委員会に提出をいただいたところでございます。それを受けて、4月6日及び4月13日の2回にわたり、教育委員会議で教育委員の皆様にご協議をいただきました。本日の資料はそれに基づいてまとめたものでございます。

なお、議会への説明でございますけれども、4月21日に教育民生常任委員会の協議会において議員の皆様にもご説明を申し上げて、ご意見等を頂戴しております。

それでは、資料に沿いまして今後の中学校給食に係る検討について説明をさせていただきます。

資料ですけれども、基本方針ですが、生涯にわたって、健全な食生活を送る心豊かなよっかいち人を育むことができるように、中学校給食を通して食育の充実を図ると。平成28年3月に出された中学校給食検討会報告書の提言を尊重し、子育て支援や全国の中学校給食実施状況を勘案し、食に関する指導を継続的、計画的に行えるよう、全員喫食を前提とした食缶方式の導入を目指すとなっています。

これは、報告書にあります提言、その中に、よりよい中学校給食のあり方を食育推進の

観点等から見れば、将来的に食缶方式の導入を目指して検討を始めることが望ましいと、このような提言をいただいていますので、それに沿ったものということでございます。

あと、それまで、食缶が導入されるまでは現行を工夫、改善しながら継続していくということで、このことについても提言で触れていますので、それを受けたものでございます。

次に、検討の内容について、食缶方式というのは、食缶でクラス分をまとめて教室に運んで配膳する方法ですけれども、どこで調理をするかということで、自校調理方式、それから親子調理方式、共同調理場方式と、この3つがおおむね考えられ、検討会の報告書では、これらを比較して、共同調理場方式が望ましいという回答をいただいています。教育委員会としましても、この3つの実施方法を詳細に比較して実現可能性等を検討していきたいと考えています。

検討の観点につきましては、1、2、3とございますけれども、用地取得、それから必要な施設建設、こういう施設整備面、それからランニングコスト等の運営面、そして学校運営上の安全管理と、このような観点で検討を進めたいと思います。

検討の方法として、庁内の関連する部局にもご協力をいただきまして、庁内基本構想策定委員会、これを設けて検討を進めたいと思います。この委員会を本年度から始めて、平成29年度には基本構想を策定していきたいと、今、考えているところです。

説明は以上です。

○館政策推進部長 ありがとうございます。

検討会からの報告書、提言を受けて、教育委員会としての今後の検討の仕方、その他についてまとめて、今日報告をいただいたということです。

この検討についての方向性につきましては、教育委員会議の中でもご議論をいただいているところではございますけれども、今日、市長を交えての総合教育会議の場でございますので、改めて教育委員の皆様方から、こういうところは気をつけるべきとか、こういうところは強調すべきというようなところがございましたら、何かご発言いただければと思いますが、どうでしょう、各教育委員の皆様方、何かございませんか。

○加藤教育委員 今の基本方針の初め2行に書いていただいておりますように、いわゆる生涯にわたって健全な食生活を送る、心豊かなよっかいち人という、ここをぜひ、今まで中学校給食の導入については我慢してきたというか、諸般のいろんな状況から、四日市の場合は実施をしてこなかった経緯がございます。要望はいろいろございましたけれども。

だから、いよいよ食缶方式で四日市の中学生が全員同じものをお昼にいただくというよ

さを生かすとすれば、やっぱり中学校教育にとってこの給食を導入してすばらしく変わると、あるいは、今までの中学生の学校現場とはこれによって随分と変わったという、そこをやっぱり大事にしてやっていくと、よりこの給食を実施する意義が見出せるのかなという気が、私は強く感じております。

したがって、予算のこともあるでしょうし、どこかで妥協点は出てくるかもわかりませんが、やっぱり中学校教育をこの給食によって変えるんだというくらいの意気込みで、ぜひこの検討には今後時間をかけ、議論をし、そして現場を巻き込んで実施の方向にしているだけで、今まで中学校の現場ではなかった給食を通して中学校教育が変わってくると、やっぱりよっかいち人を育むんだというところに帰着してほしいなと思うし、そこに大いに期待をしたいと思っています。

以上でございます。

○館政策推進部長 ありがとうございます。

単にお昼を食べる、給食を食べるのではなくて、食育とかそういうことを通じてということですね。教育に広がるようなというか。

○加藤教育委員 お昼を提供しますよということではちょっと寂しいなと。

○杉浦教育委員 ほんとうに今、学校での給食、食ということですので食育というのはもちろんですし、やはり食べるということに対して満足感とか安心感という場が学校にないと、その後の教育とか、また学力向上というところに結びついてこない、ほんとうに人としての基盤ですので、そういった意味でしっかりと学校に来たら安心してご飯が食べれる場であるというような意識をつくるということのももちろんなんですが、それに次のステップとしてプラスアルファでぜひお願いしたいなと思うのは、今日の報告書の中にもしっかりと活字として、3ページあたりにも書いていただいているんですけども、ただ食べるというだけではなくて、地産地消というようなところから、ぜひここにも出てきているよっかいち人を育てるというところと地産地消ってすごくバチッとくることだと思いますので、お願いをしたいと思いますし、報告書の中では、生産者を学校に招いて生産者の思いに触れるなど、体験型の食育を進めることができるというところもあるわけなんですけど、それ以外にも、やはり食材を地元のものを使うとかということで、教育以外の地元に対する経済的な効果というものも膨れてくるわけですし、やはり給食を賄うということになりますと税を使ってということにもなるんですけども、またそこで税収が増えるというようなところにも少なからずつなげていっていただきたいとも思いますし、また、四日市市というところ

環境に関してすごく先進的な市というところもありますが、地産地消をすごく取り入れるということによってフードマイレージを下げるといふようなところにもつながってきますので、給食を検討するという切り口からさまざまなところに対する波及を期待したいと思いますので、ぜひよろしくお願ひしたいと思ひます。

○館政策推進部長 人の、ある意味、子どもたちが食生活をきちんとすることで、実はそれが学力とか、学につながっていくというご意見、それから地産地消、これは小学校の給食でも地産地消を結構、教育委員会で今進めていらっしゃると思ひますが、その意味では、こういう食缶方式の形でいけば地産地消は進めていきやすい形にはなろうかと思ひます。

○松崎教育委員 もう一つ、私個人としてといふか、障害を持つ親としてお願ひといふか、できればいいなという理想ではあるのですが、今回の給食センターがもしできるということであれば、それに関連して、福祉、農業にもやっぱりつなげていっていただければなと思ひます。

といふのは、やっぱり福祉として、今、福祉と農業といふのは非常にトレンドとして言われていまして、農業の人手不足、地産地消でいきたいにもかかわらず人手が足りないということもあって、そのあたりにもっと福祉の障害のある人たちとか、いろんな弱者の立場の人たちが働く場所づくりという意味で農業、実際作業所でいろんな農作物をつくっているところもありますが、なかなかそれを売るところもないと困っている方々もたくさんみえますので、そういった幅を広げるといふ、そういう場所づくりという意味で、福祉の場所づくりも同時に進めていければ、そういった作業所の人たちの働き場とか、あと、子どもたちにとって、こういう人たちもつくってくれているという福祉の意味、人権の意味でもいいのではないかと思ひますし、また、さらに給食センターの雇用を、例えば四日市ならではのやり方として障害者も受け入れてみるとか、例えば古川とか大橋とかでたくさん免許を持っている子どもたちもいますので、何かそういう子たちが手助けできるような場所ができないかとか、ほかとちょっと一歩進んだ独自の福祉や農業や、そういった地域活性化とか、うまく絡めていけないかと福祉の立場からいつも考えていましたが、ちょうどこれはいいなと私は思ひましたけど、市長、何とかなればなと思ひうのですが、どうですか。

○加藤教育委員 関連して、この地産地消といふのはほんとうに響きのいい言葉ですけど、例えば市内の22校、今9千人ぐらいですかね、中学生。9千食は要るんですよ。9千食を、それこそ貝家のトマトで全部同じ日に食べさすということは、なかなか農家の方に

とっても材料の調達という問題で難しいと思います。だから、地産地消を図る1つのルートのようなものもやはりきちっと新しい給食の中に、今日は北部の中学生はトマトを食べます、でも、中部や南部の子たちはちょっと違うメニューでいきますとか。だから、仮に一番現実的なのは共同調理場だと思うのですが、そのメニューを少し時間差というか、調理のメニューをずらしながらというのも1つの可能性のある方式だと思いますが、地産地消で曲がったキュウリもちょっと大きくなり過ぎたナスも自由に使いながら中学生に給食が提供できる、これは手間がかかることですが、考えていただくといいのかと思いますし、そこへ、松崎委員がおっしゃるように、かかわる人も、福祉の方も一部かかわっていただけるような、あるいはいろんな方に中学校給食を起点にして何か四日市がまた1つ活性化されていくような手だてができるとすばらしいですね。

○館政策推進部長 調理方式については、まだこれからの検討課題でございます。必ずしも、共同調理方式になるかどうかはまだ、1つの手法ということでございますが、やはり自校調理、親子調理の場合も考えられます。その中で、先ほど言っていたように、やはりまとまった量が確保できないと、小学校のとき、食育の議論をしておいたときもその問題がございました。したがって、案外例えば保育園とかはその場で……。

○加藤教育委員 小回りがきくんですね。

○館政策推進部長 小回りがきくんですね。結構小さいロットでその地域のものを購入してということが、それは自校調理だからできたのかもわかりませんが、ただ、小学校の場合には全員が同じメニューを食べるというのが大前提にありますので、そのときの難しさは実はこれまでの議論の中でございました。だから、ここの運営面のあたり、ランニングコストも考えながら行くといったところもありますので、そこは十分これから事務局としても、そういう視点は持ちながら、コストの面とも一応比較しなくてはならないと思います。

それと、福祉の面からもご意見をいただきましたし、先ほどの地産地消というところでもいきますと、福祉施策や、あるいは農業施策ともやっぱり関連してまいりますので、かつて食パンを学校に納入するためにいろんなパンの会社がどんどんできました。給食が一応広がったときに。そういった広がりをも農業でも持っていけるかどうかです。ここは農業も非常に厳しい。今、福祉の皆さん方のそういう農園もありますが、一方で農業そのものが四日市は非常に厳しくなっておりまして、耕作放棄地も出てきているという中で、農業施策との関連性もこれは当然出てきますので、そういう観点で見えていかないといけない

という思いも今いたしました。

どうでしょう、そのほかに。

○葛西教育長 あと、やはり教育として、食育をやっぱり計画的、継続的にきちっとしていくと。ただお昼を食べるということではなく、それをやはり生きた教材として中学校でどう食育を一人一人の子どもの中に浸透させていくかと、これはやはり大きいと思います。小学校はかなりこういう面に進んできているけれども、中学校は今それをやり始めていますが、まだまだそこまでは行っていないという、そういう実情がありますので、そういう計画もやはりきちっと、私ども、ソフトの部分で練って行って、子どもたちがその中で食育を、食べるということを通してどういう人間形成につながっていくのかということろまでもやはりきちっとしたものをつくっていかなくてはならない。これもいわゆる調理方式の検討とともにやっていかなくてはならない大事な面かと思っています。

○館政策推進部長 ありがとうございます。

○渡邊教育委員 今教育長が言われた点の、それは非常に深掘りをしていかなくてはならない。だけど、中学校の教育現場というのはなかなか、時間的な制約が随分あるということなどはやはり思います。だから、そういった意味では、私は健康教育、それから環境教育にどう伸ばしていくか。特にフードロス、世界的に大きな問題になっている食の循環、そういう環境の問題というところにどう伸ばしていくかと、やはり中等教育ですから、大人としての社会人への非常に教育的な基礎といいますか、そういう観点をやはり伸ばしていくということは、なかなか現在の中学教育からいうと相当難しい問題なのですが、幸いにして、これが実現するまでに相当長い時間が必要ですよ。だから、相当長い時間をかけてしっかりした深掘りを、健康教育、環境教育という面、あるいは、21世紀は世界的な食料問題ということもいずれ起こってくる可能性が非常にある、そういう時代ですから、そういう大人としてのステップのために非常に大事な深掘りが、かなり検討期間の中で大切にしていく必要があるので、そこを、ぜひ教育の分野からリードして、これに厚みを加えていくということがこれからの大きな課題として大事だと思います。

○館政策推進部長 食全般のですよね。

○加藤教育委員 お昼の時間を1つの教育の場とするような何か日課を考えていかないと、それこそ役所の皆さんがお昼休みの1時間を楽しまれるように、やっぱり中学校の教育の中での1時間で、あるいは、もう給食を食べる時間は15分でもいい、20分だと決めてしまうと窮屈になりますので、60分の1つの単位として、そこに給食を食べながら何か、

今言われた環境の問題もあるでしょうし、それこそ最近の農業問題でもあるでしょうという、そんなカリキュラムがずっと導入できると、やっぱり中学生の1日の生活の中に自然に給食が入り込んで教育が変わってくるという、そういうのもぜひ、今深掘りとおっしゃいましたけど、今後じっくりと検討しながら、数学の時間が足りなくなります、英語ができませんと言ってしまうと、また元の木阿弥になりますので、そこをうまく、他市にはない四日市の独自のやり方、やはり給食を1つの手段にしながら、中学校教育に下支えをぐっと変えたと言われるような給食ができれば、本当に素晴らしいと思います。

○**田中市長** 給食、子どもたちの楽しい時間なので、あまりかたく食育とかしこまってしまうとあれですけど、例えば、それこそ、電子黒板のようなものを使って映像で見せながら、少し担任の先生が解説するぐらいの、うまくその辺の工夫はしなくてはいけないかと思えますけど。

○**館政策推進部長** 給食を導入した後のいろいろな、今、夢も膨らんでいますが、何か教育という面で、福祉とか農林漁業との連携というよりは、教育委員会として食育とか、あるいは食全般の教育ということに対して何かコメントはありますか。

○**上浦学校教育課長** 今、教育的な意義であるとか、それから、それこそ、給食を通したまちづくりというような話も出していただいたのではないかと思います。

今後、まずはどういう形の給食になるかということを考えていくことも大事になってくると思うのですが、今おっしゃっていただいたことを考えながら、今後のことも検討していかなくてはいけないのではないかと思います。

食育については、さきほど教育長も申し上げたように、小学校ではみんなが同じものを食べていますので、給食を通した食育というのは非常にやりやすいというところがあるんですが、中学校もそういう形になっていけばということを考えています。

ただ、今お話を伺っていて、小学校の給食も今ベストなのかと、そのような感じもしてきましたので、そういったことも含めて検討する必要もあるかなということをおもいました。

○**館政策推進部長** 今の小学校で気をつけなくてはならないことも今いただいたということですね。

いずれにしても、まずは中学校給食を導入していくための検討にこれから入るという中で、そういった後々のことも考えながら検討していくというご意見を頂戴したのかと思っております。

どうでしょう、市長、最後に1つ。

○**田中市長** まだ給食をどうするかということについては正式に決定していないわけですが、今教育委員からも非常に貴重なご意見をいただきましたし、3月にこの検討会の提言を受けて、教育委員会としての基本方針といえますか、そういった考え方を今日聞かせてもらったわけで、特に、やはり子どもが生涯にわたって健全な食生活を営めるように、そういうところに食育の重要性を見出して、全員喫食を前提とした食缶方式という方向づけをしてもらったと思うのですが、確かに、今教育委員からもご意見がありましたように、やはり食べるというのは人間の生活の中の「衣・食・住」の「食」の非常に重要な要素ですので、例えば地産地消ということもあるし、それから食べ物と健康の関係とか栄養のバランスとか、それから、その食べ物が一体どうやってつくられてきたのかということも学んで、そこから生産者とか加工、また、流通とか、そういった食べ物が今自分の口に入ろうとしている、そこまでのプロセスを学んで、感謝の気持ちとか、そういうものを育んでいくことも食育の一環だと思いますので、もちろん、さきほどの福祉の観点というのがありますけれども、食缶方式の導入ということがこの場では大体方向づけができていますと思いますけれども、今後、市としましては、今日の協議を踏まえまして、やはり庁内でこの基本構想の策定委員会は設けなくてはいけないと思いますし、その中で、もし全員喫食の食缶方式という方向で行くのであれば、3つの調理方式の中のどれがふさわしいのかという議論も含めて、しっかり議論を積み重ねて最終的な結論を出すことになると思うのですが、その話の前提となる全員喫食という方向の判断について、あまり長い時間をかけていることができませんので、これについては議論もしっかりしながら、私で、最終的にスピード感を持って、方向づけはしっかりとさせてもらいたいと思います。それは近々決断したいと思います。

ありがとうございました。

○**館政策推進部長** ありがとうございました。

今市長が締めていただいた形で今後検討を進めていきたいと思います。

それでは、一応本日予定させていただいた大きな議題は以上でございます。

4 その他

○**館政策推進部長** その他のところに入っていきたいと思います。

その他のところでご提案なり、何かございますでしょうか。

○**渡邊教育委員** 前から中期的な課題と言っていたところの、教育ではスポーツ施設とと

もに図書館問題、これは非常に重い課題だとかねがね認識しておりました。だから、総合計画の中での位置づけはまだ少し後半だという認識を、我々はずっと持っているのですが、そこらはどうなのだろうかと、ぜひこのような場でも、話題といいますか、議題にさせていただく時期が近くあればいいかと、私はずっと前から思っていました。

○**田中市長** 今の渡邊先生のご意見に関連して、私から1つ報告をさせてもらいたいと思うのですが、図書館を今の現状の図書館ではなく、どうするのかということは、市政アンケートをとっても市民の皆さんの一番重要な関心事で、期待は大きいけれども満足度が小さい、そういう項目になっています。もう長年そうなのですが、やはりスピード感を持ってこの課題に対応しなくてはいけないと強く私も思っています。

少し話は飛びますけれども、今、中心市街地の活性化というテーマについて議論をしております、このテーマも非常に重大なテーマで、もう何十年にわたり構想が出ては消えということを繰り返しているのですけれども、やはりこの懸案課題、図書館の問題もそうですが、この問題も非常に重要な課題であると。幸い、最近少し活性化の動きが出てまいりまして、例えば、高層マンションの建設があちこちで進められているのと、それから、駅東の商店街、以前は空き店舗がたくさんあったのですが、大分空き店舗が埋まってきて、主に飲食店が多いのですが、空き状態よりは非常に活力の源になりますし、それから、住友電装株式会社の本社ビルが駅東に移転してきたことも1つ大きいことだと思います。それから、ご承知かと思うのですが、スーパーサンシの前の区画、以前火事があったところは、今、サービス付き高齢者マンションを中心とした再開発事業が進められており、これも1つの起爆剤になると思いますが、こういった活性化の動きが出ております。駅西は「そらんぼ四日市」も開館しましたし、こういうタイミングを逃さずに中心市街地の活性化の起爆剤になり得るような拠点施設の整備について、今検討を始めているところです。その中で、その拠点施設にどういう機能を入れるかということが課題なわけですが、今、市としては、図書館も含めて文化的な施設をその機能の中の1つに入れると、メインになるかどうかは別として、そういう議論を今現在していますので、随時その議論の過程を教育委員の皆さんにもご報告して、またここで、あるいは教育委員会議の中で、活性化とも絡んできますけれども、図書館のあり方について議論を深めていただけるとありがたいなと思います。

今渡邊先生がおっしゃったように、これはもうずるずると先延ばししていくことではないと思いますし、スピード感を持って進めていきたいと思っています。今、総合計画で想

定している時期よりも大分前倒しでやろうとしていますので、ぜひ1つよろしく願いいたします。

○葛西教育長 私たちも負けずに、図書館の機能についてしっかりと教育委員会の中でも議論をさせていただいてということでやっております。

○加藤教育委員 少しずれるのかもわかりませんが、すごい駐車場が地下にありますので、四日市の場合は。あれをもっと財産として使える方向、駐車代でペイするとか、そんな問題ではなくて、市民が気楽に利用できる、車を駐車できるスペースとしてあれをもう少し開放的に考えると、今市長がおっしゃられた中心市街の活性化に大変寄与すると思うんですけど、今は料金が高いとか女性はちょっと怖いとか、暗いので。

○杉浦教育委員 安全にというのもお願いします。

○加藤教育委員 そういう問題もありますけど、いい財産が四日市には過去の決断でつくっていただいておりますので、あれをもっと利用するというか……。

○田中市長 あれは、市制100周年の記念事業で地下駐車場ができて、本来の目的は商店街の活性化ということがあったのですが、それになかなかつながっていないですね。だから、やっぱり創意工夫が必要だと思います。今の駐車場を完全に別の目的に変えることはできないものですから、資金を借りていますので。駐車場としてもう少し付加価値をつけて、より利用してもらいやすくして、拠点施設に来た人もそれを利用してもらえような、そういう相乗効果を考えなければいけないと思います。

○館政策推進部長 都市基盤としての駐車場ですね。

○加藤教育委員 今回の図書館構想にしても、あの駐車場が活用できる距離のところであれば、上に駐車場を設ける必要がないわけですので、一定のスペースで立派なものが出てくるというのがあります。博物館も今、確かにすこし行きにくいのは駐車場の問題がございいます。やはりあの地下の駐車場が市民にもっと活用されやすい、料金も含めて、あるいは利用の仕方も含めて考えていただくと、地上のプランと連動して考て事が進む、まさにスピードが出てくる感じがいたしますので、ぜひ大きな視野で駐車場活用プランなるものを考えていただくと。

○館政策推進部長 どっちが先かということはあると思いますが、いずれも、目的は中心市街地の活性化ですよ。

○加藤教育委員 どっちが先かですけど、意外と地下から来るとうまくいく場合もございいますので。

○田中市長 あわせて、トータルで考えなければいけないですね。

○館政策推進部長 トータルですね。中心市街地全体、駐車場が使われないということは活性化していないということですので、中心市街地活性化全般に、やはり駐車場は当然基盤として使っていくと最終的になると思います。

○加藤教育委員 あれはすばらしい空間だと思いますので。

○館政策推進部長 ありがとうございます。

ほかはよろしいでしょうか。

中心市街地活性化の中でひとつ、図書館も視野に入れて検討していく予定でございます。その方向性について、折に触れてまたこの場でご議論いただくこともあるかもしれないということで、今市長からお話をいただきました。

ほか、よろしいでしょうか。

それでは、ありがとうございます。本日予定しておりました内容は全て終了しました。

事務局から、その他でご報告するような内容はないですか。次回はいつごろというのは、また案件が出てきたときですか。

○長谷川教育総務課長 それと進捗の報告等、お話を2点いただいておりますので、それも視野に入れて、またスケジュールは考えさせていただきたいと思います。

○館政策推進部長 教育大綱の進捗でということですね。

それでは、去年策定させていただいた教育大綱の進捗については毎年検証していく、この場でおこなうとお約束させていただいております。それは必ず場を設けさせていただくということ、また何か案件が出てまいりましたら、今年度内に何度か会議を開催させていただくことになろうかと思っております。今後ともぜひご協力いただきたいと思います。

本日はどうもありがとうございました。

午前10時45分 閉会